

令和8年度の市の方針と主要な事業の特徴



民主・護憲クラブ
森田 義孝 議員

令和8年度の市の方針と
主要な事業の特徴

問 関市長は、令和8年度の市の方針として三つのまちづくりによる好循環を生み出すことで、将来を担う子供たちが、この豊かな大牟田で安心して仕事をしながら生活できるようなまちを目指され、まちなか再生による活性化や災害に強いまちづくりにより、安心・安全に生活ができ、市内外の方にとって魅力的なまちの実現に向けて取り組むこととされている。

そこで、令和8年度の市の方針と主要な事業の特徴について、お聞きしたい。

答 喫緊の課題である物価高騰への対応をはじめ、令和8年度の主な事業として、企業誘致や新たな産業団地の整備に向けた取組、及び小・中学校の体育館への空調設備の設置などにも取り組んでいく。

まちなか活性化推進室に
ついて組織機構の見直しを
行う目的

問 市長直近下位の組織として、令和6年4月に設置したまちなか活性化推進室につい

て、組織機構の見直しが行われ、令和8年4月から産業経済部の部内室へ位置づけを変更することだが、組織機構の見直しを行う目的は。

答 これまでのまちなか再生に向けた方向性の検討や、組織体制の構築といった基礎づくりの段階から具体的な事業の実行段階へと、次のフェーズに移行したと捉えている。産業経済部に位置づけを変更することで、まちなか活性化推進室の体制をさらに強化するとともに、企業誘致や商業振興などの取組と一体的なマネジメントの下で、事業を進めていきたい。

新学校名案「桜花」を
決定されるまでのプロセス

問 教育委員会は令和9年4月に開校する市立中学校名案を「桜花」に決定された。そこで、新学校名案「桜花」を答申されるまでのプロセスを聞きたい。

答 白光・甘木中学校再編協議会では、教育委員会からの諮問を受け、校名案アンケートを実施することを決定。第6回再編協議会で、3案に絞り込まれ、第7回再編協議会で、桜花中学校を校名案とすることが決定された。こうした経過を経て、令和7年12月8日に教育委員会に対し、新学校名案「桜花」の答申が行われた。

今後の平和教育

問 新しい市立中学校名を「桜花」に決定される過程で、平和教育の大切さを改めて考えさせられたことと思う。そうした中、歴史に真正面から向き合い、かつて、若い尊い命が「桜花」の名の下に失われた悲しい歴史を記憶に刻み、風化させないための平和教育を行っていくのが問われている。

そこで、今後の平和教育について聞きたい。

答 桜花の校名を通じて、平和の尊さを学ぶ教育の実践と戦争の悲惨さを記憶に刻み、1人1人が大切にされる民主的な社会を築いていく。その強い意志を育む平和教育の充実に努めていく。



再発言 新学校名案「桜花」は、太平洋戦争末期に人間爆弾とも称された実際の兵器名である。

二度とこのような悲惨なことを起こさないためにも、戦争を知らない子供たちに、太平洋戦争の現状や平和の尊さを含めた平和教育を実践していただくことを強く要望する。